

525) 蓮華草

小生が写真撮影が趣味であることは以前にも記したけれど、ほとんどが植物や昆虫の写真である。植物は動かないから、比較的簡単に取れるのだが、昆虫となると、やたらと動くのと、体が小さいので結構撮りにくい。このため9割がたが植物である。先日、川本という埼玉県北の町にトマトを買いに行った帰り道、田舎道に車を止めて蓮華畑で写真を撮っていた。蓮華そのものもアップで撮るとなかなか絵になるのと、小さな蜜蜂が集まっていて、昆虫写真も撮れそうだったからである。ところが実際に撮ろうとすると、蜂はすぐに違う花に行ってしまうし、ピントはなかなか合わないし、おまけにこちらの意図する構図になるように花が咲いてなかったりで、つつい車のことなどすっかり忘れて、まるで蜜蜂のように、あの花、この花と、カメラにピッタリ収まる花を求めて、動き回っていた。そしてふと、道路の方に目をやると、何と小生の車の止め方がずさんだったから、他の車が通ることができず、何台も立ち往生していたのである。いやはやこんな畑の真中の一本道だから車など来やしないと思っていたのだが、さにあらず、生活道路として利用されていたのである。しかし、東京からはるばるこんな辺鄙なところまでやって来て、蓮華の花にカメラを向けているオジさんに、おそらく多少の敬意と、多少の侮蔑の眼差しを向けて、写真撮影が終わるのを待っていたらしいのである。いい年をしたオジさんが、道路を勝手に占有して、困ったものだと内心思っていたに違いない。それでもクラクション一つならずでなく、こちらの撮影が終わるまで黙って待っていてくれるこの町の人々の、優しさに改めて感服した次第なのであります。